

病害虫発生予察情報 第1号

富山県農林水産総合技術センター所長

4月の病害虫発生予報

【予報の概要】

作物名	病害虫名	発生量	発生時期	作物名	病害虫名	発生量	発生時期			
水稲	トリコデルマ、リゾープス、フザリウムによる苗立枯病	多い	—	果樹	りんご	リンゴコブアブラムシ	少ない	早い		
	ピシウムによる苗立枯病(ムレ苗)	少ない	—			カイガラムシ類	少ない	早い		
	もみ枯細菌病、苗立枯細菌病	並	—		日本なし	黒星病	並	並		
	褐条病	並	—			カイガラムシ類	少ない	早い		
	ばか苗病	少ない	—			ニセナシサビダニ	やや多い	早い		
						ハマキムシ類	少ない	早い		
大麦	雲形病	並	—		ぶどう	黒とう病	並	並		
	うどんこ病	並	—			晩腐病	やや少ない	並		
	赤かび病	並	並		かき(三社)	フジコナカイガラムシ	少ない	早い		
野菜	タマネギ	べと病	並		やや早い	花き球根	チューリップ	褐色斑点病	並	並
果樹	りんご	黒星病	少ない		並		モザイク病	並	—	
		褐斑病	やや多い		並		アブラムシ類	やや多い	早い	
		うどんこ病	少ない	並						
		ハダニ類	やや多い	早い						

<p>発生量</p> <p>多い : 平年比 141%以上</p> <p>やや多い : 平年比 121%以上 140%以内</p> <p>並 : 平年比 80%以上 120%以内</p> <p>やや少ない : 平年比 60%以上 79%以内</p> <p>少ない : 平年比 59%以下</p>	<p>予報時期</p> <p>早い : 平年値より 6日以上早い</p> <p>やや早い : 平年値より 3~5日早い</p> <p>並 : 平年値を中心として前後 2日以内</p> <p>やや遅い : 平年値より 3~5日遅い</p> <p>遅い : 平年値より 6日以上遅い</p>
<p>予報の根拠中の</p> <p>(+) : 発生量が多くなる要因、(±) : 平年並み発生要因、(-) : 少なくなる要因</p> <p>(早発) : 発生が早くなる要因、(遅発) : 遅くなる要因 をそれぞれ示す。</p>	

I 水 稲

1 トリコデルマ、リゾープス、フザリウムによる苗立枯病

- (1) 予報内容 発 生 量：多い
- (2) 予報の根拠
- ・ 4月 13 日にかけての気温は高いと予想されている。
(+)
- (3) 防除対策
- ・ 育苗資材の衛生管理と育苗期間のハウスの適正な温湿度管理（多湿、ハウス昼間温度 25℃以上を避ける）に留意し健苗育成に努める。
 - ・ 防除指針（令和 7 年度）：16～17 ページ参照



図 1 苗立枯病（トリコデルマ菌）り病苗

2 ピシウムによる苗立枯病（ムレ苗）

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない
- (2) 予報の根拠
- ・ 4月 13 日にかけての気温は高いと予想されている。
(-)
- (3) 防除対策
- ・ 育苗資材の衛生管理と育苗期間のハウスの適正な温湿度管理（5℃以下にならないように管理し、多湿を避ける）に留意し健苗育成に努める。
 - ・ 防除指針（令和 7 年度）：18 ページ参照



図 2 苗立枯病（ピシウム菌）り病苗

3 もみ枯細菌病、苗立枯細菌病

- (1) 予報内容 発 生 量：並
- (2) 予報の根拠
- ・ 4月 13 日にかけての気温は高いと予想されている。
(+)
 - ・ 種子消毒が徹底されている。(-)
- (3) 防除対策
- ・ 種子の比重選を実施する。
 - ・ 種子消毒を徹底する。温湯消毒の場合は、温度、時間および種子の処理量を厳守し、催芽前または催芽時に食酢処理や生物農薬を併用し防除効果を高める。
 - ・ 催芽は蒸気式又は風呂場で行い、循環式催芽器は使用しない。
 - ・ 出芽期の温度は 30℃、緑化期以降は 25℃以上とならないよう育苗器の設定やハウス内の換気に努める。
 - ・ もみ枯細菌病は有機物含量の高い軽量培土を使用することにより発病を抑制できる。
 - ・ 防除指針（令和 7 年度）：11～19 ページ参照



図 3 もみ枯細菌病り病苗

4 褐条病

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・ 4月13日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
- ・ 種子消毒が徹底されている。(－)

(3) 防除対策

- ・ 種子消毒を徹底する。温湯消毒の場合は、温度、時間および種子の処理量を厳守し、催芽前または催芽時に食酢処理や生物農薬を併用し防除効果を高める。
- ・ 催芽は蒸気式又は風呂場で行い、循環式催芽器は使用しない。 図4 褐条病り病苗
- ・ 出芽期の温度は30℃、緑化期以降は25℃以上にならないよう育苗器の設定やハウス内の換気に努める。
- ・ 防除指針（令和7年度）：11～19 ページ参照



5 ばか苗病

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

- ・ 種子消毒が徹底されている。(－)
- ・ 県内産種子による更新率が高い。(－)

(3) 防除対策

- ・ 育苗資材の衛生管理を徹底する。
- ・ 種子消毒を徹底する。温湯消毒の場合は、温度、時間および種子の処理量を厳守し、催芽前または催芽時に食酢処理や生物農薬を併用し防除効果を高める。
- ・ 催芽は蒸気式又は風呂場で行い、循環式催芽器は使用しない。
- ・ 防除指針（令和7年度）：11～16 ページ参照



図5 ばか苗病り病苗

Ⅱ 大 麦

1 雲形病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
- ・種子更新および種子消毒が徹底されている。(－)
 - ・3月10日調査では発生は認められなかった(平年の発病度は0)。(－)
 - ・4月13日にかけての降水量は平年並か少ないと予想されている。(－)
- (3) 防除対策
- ・排水対策を徹底する。
 - ・防除指針(令和7年度)：51ページ参照



図6 雲形病罹病株

2 うどんこ病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
- ・3月10日調査では発生は認められなかった(平年の発病度は0.1)。(－)
 - ・4月13日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
- ・発生初期に薬剤による防除を実施する。
 - ・防除指針(令和7年度)：51ページ参照



図7 うどんこ病罹病葉

3 赤かび病

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：並
- (2) 予報の根拠
- ・4月13日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
 - ・4月13日にかけての降水量は平年並か少ないと予想されている。(－)
- (3) 防除対策
- ・開花時に曇雨天が続くと多発生することから、降雨が続く場合でも雨の晴れ間をみて穂揃期とその7日後の2回の防除を確実に実施する。特に1回目の防除は、可能な限り液剤による防除を行う。
 - ・防除指針(令和7年度)：52ページ参照

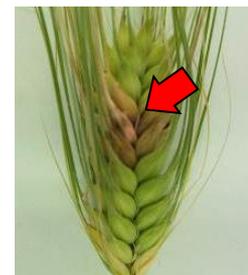


図8 赤かび病罹病穂

Ⅲ 野菜

1 タマネギのべと病

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：やや早い

(2) 予報の根拠

- ・定植後の前年10月20日～11月30日の平均気温は、11.5℃で平年並(11.5℃)であった。(±)
- ・4月13日にかけての気温は高いと予想されている。(＋、早発)
- ・4月13日にかけての降水量は、平年並か少ないと予想されている。(－)

(3) 防除対策

- ・越冬罹病株の抜き取りを徹底する。なお、越冬罹病株は一斉に発生せず、だらだらと発生するため、抜き取り作業は複数回にわけて実施する。
- ・発病確認後の薬剤防除は、十分な効果が期待できないため、二次感染が生じる直前の2月下旬～3月上旬から継続的に薬剤を散布する。
- ・防除指針(令和7年度)：98ページ参照



図9 べと病越冬罹病株

Ⅳ 果樹

1 りんごの黒星病

- (1) 予報内容 発生量：少ない
発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・前年の発生量は少なかった。(－)
- ・4月13日にかけての降水量は平年並か少ないと予想されている。(－)

(3) 防除対策

- ・開花期は重要防除時期であるが、薬剤の散布は結実への影響が懸念されるため、防除は開花直前及び落花直後に実施する。なお、薬剤の散布間隔が10日以上開かないようにする。
- ・果樹研究センターにおける平年の「ふじ」の開花始期は4月18日、開花盛期は4月23日である。
- ・防除指針(令和7年度)：135、138～140、144～145 ページ参照



図10 黒星病の初期病斑(上)と進行した病斑(下)

2 りんごの褐斑病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
発生時期：並

- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量は多かった。(＋)
 - ・4月13日にかけての降水量は平年並か少ないと予想されている。(－)



図11 褐斑病の初期病斑(左)と進行した病斑(右)

- (3) 防除対策
- ・園地内に残っている落葉は伝染源となるので、落葉処理(園地外に持ち出し処分、乗用草刈機による粉碎等)の見直しを行う。
 - ・開花期は重要防除時期であるが、薬剤の散布は結実への影響が懸念されるため、防除は開花直前及び落花直後に実施する。なお、薬剤の散布間隔が10日以上開かないようにする。
 - ・前年に発生が多かった園地では、春先からの薬剤の散布量を十分確保する。
 - ・防除指針(令和7年度)：135、138～140、144～145ページ参照

3 りんごのうどんこ病

- (1) 予報内容 発生量：少ない
発生時期：並

- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量は少なかった。(－)
 - ・4月13日にかけての降水量は平年並か少ないと予想されている。(－)



図12 うどんこ病のり病葉

- (3) 防除対策
- ・開花期は重要防除時期であるが、薬剤の散布は結実への影響が懸念されるため、防除は開花直前及び落花直後に実施する。なお、薬剤の散布間隔が10日以上開かないようにする。
 - ・被害枝、花そう、葉は見つけ次第せん除し、園地外に持ち出す。
 - ・防除指針(令和7年度)：135、138～140、144～145ページ参照

4 りんごのハダニ類

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
発生時期：早い

- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量はやや多かった。(＋)
 - ・4月13日にかけての気温は高いと予想されている。(早発)

- (3) 防除対策
- ・スプレーオイル(50倍)を発芽前に散布する。なお、果樹研究センターにおける平年の「ふじ」の発芽期は3月23日である。
 - ・発生密度を下げるため、粗皮削りを行う。
 - ・防除指針(令和7年度)：135、142～143、145～146 ページ参照

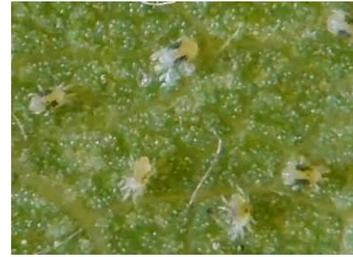


図13 ナミハダニの成虫

5 りんごのリンゴコブアブラムシ

- (1) 予報内容 発生量：少ない
発生時期：早い

- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量は少なかった。(－)
 - ・4月13日にかけての気温は高いと予想されている。(早発)

- (3) 防除対策
- ・発生の多い園地では、ウララDF(4,000倍)を散布する。
 - ・防除指針(令和7年度)：135、142、145～146 ページ参照



図14 アブラムシ類による被害葉

6 りんごのカイガラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：少ない
発生時期：早い

- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量は少なかった。(－)
 - ・4月の気温は高いと予想されている。(早発)

- (3) 防除対策
- ・スプレーオイル(25～50倍)又はトモノールS(25～50倍)を発芽前に散布する。多発樹では、散布前にワイヤーブラシ等で削り落とす。なお、果樹研究センターにおける平年の「ふじ」の発芽期は3月23日である。
 - ・発生の多かった園地では、アプロードフロアブル(1,000～1,500倍)を散布する。
 - ・防除指針(令和7年度)：135、141～142、145～146 ページ参照



図15 ナシマルカイガラムシ寄生枝

7 日本なしの黒星病

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・前年の秋型病斑葉率は高かった。(＋)
- ・4月13日にかけての降水量は平年並か少ないと予想されている。(－)

(3) 防除対策

- ・園地内に残っている落葉は伝染源となるので、落葉処理（園地外での処分、乗用草刈機による粉碎、ロータリによるすき込み等）の見直しを行う。なお、処理は子のう胞子の飛散が始まる3月中旬までには完了する。
- ・芽基部病斑は見つけ次第、基部から切除し、園地外で処分する。
- ・開花直前及び落花直後は最重要防除時期なので、薬剤の散布間隔が10日以上開かないように適期防除に努める。なお、果樹研究センターにおける平年の「幸水」の開花始期は4月13日、開花盛期は4月15日である。
- ・品種や園地によって開花ステージが大きく異なるような場合は、それぞれの品種や園地の開花ステージに合わせて防除を実施する。
- ・防除指針（令和7年度）：147、149～152、155 ページ参照



図16 黒星病の芽基部病斑

8 日本なしのカイガラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：少ない
発生時期：早い

(2) 予報の根拠

- ・前年の発生量は少なかった。(－)
- ・4月13日にかけての気温は高いと予想されている。(早発)

(3) 防除対策

- ・ハーベストオイル（50倍）を発芽前に散布する。
- ・多発樹では、散布前にワイヤーブラシ等で削り落とす。
- ・防除指針（令和7年度）：147、152～153、156～157 ページ参照



図17 ナシマルカイガラムシ寄生枝

9 日本なしのニセナシサビダニ

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
発生時期：早い

- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量はやや多かった。(＋)
 - ・4月13日にかけての気温は高いと予想されている。
(早発)

- (3) 防除対策
- ・前年発生が多かった園地ではクムラス(300倍)を散布する。
なお、カイガラムシ類対策としてハーベストオイルの散布を行う際は14日以上間隔を空け、近接散布を避ける。
 - ・防除指針(令和7年度)：147、149、154、156～157ページ参照



図18 ニセナシサビダニによる被害葉

10 日本なしのハマキムシ類

- (1) 予報内容 発生量：少ない
発生時期：早い

- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量は少なかった。(－)
 - ・4月13日にかけての気温は高いと予想されている。
(早発)

- (3) 防除対策
- ・防除適期はりんぼう脱落期である。防除が遅れると花蕾の食害が発生するので、生育状況を確認し、確実に防除を実施する。
 - ・防除指針(令和7年度)：147、152～153、156～157ページ参照



図19 ハマキムシ類による被害花そう

11 ぶどうの黒とう病

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：並

- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量は平年並だった。(±)
 - ・4月13日にかけての降水量は平年並か少ないと予想されている。(－)

- (3) 防除対策
- ・被害枝や棚線に残っている巻きづるや穂軸基部(前年のなり跡部)は除去し、園地外に持ち出す。
 - ・発芽前及び発芽直前は重要防除時期なので、適期防除に努める。特に「シャインマスカット」は本病に病しやすいため、発生防止に有効なデランフロアブル(200倍)を休眠期(発芽前)に必ず散布する。なお、果樹研究センターにおける平年の発芽期は露地栽培の「シャインマスカット」で4月12日、「巨峰」で4月13日である。
 - ・防除指針(令和7年度)：158、160～162ページ参照



図20 黒とう病の病斑(左)とり病果(右)

1 2 ぶどうの晩腐病

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
発生時期：並
- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量は平年並であった。(±)
 - ・4月13日にかけての降水量は平年並か少ないと予想されている。(－)
- (3) 防除対策
- ・被害枝や棚線に残っている巻きづるや穂軸基部(前年のなり跡部)を除去し、園地外に持ち出す。
 - ・発芽前及び発芽直前は重要防除時期なので、適期防除に努める。なお、果樹研究センターにおける平年の発芽期は露地栽培の「シャインマスカット」で4月12日、「巨峰」で4月13日である。
 - ・防除指針(令和7年度)：158、160～162ページ参照



図21 晩腐病のり病果

1 3 かき(三社)のフジコナカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生量：少ない
発生時期：早い
- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量は少なかった。(－)
 - ・4月13日にかけての気温は高いと予想されている。(早発)
- (3) 防除対策
- ・発芽前～発芽期にスタークル顆粒水和剤の樹幹塗布を実施する。
 - ・前年に発生が多かった園地では、粗皮削りを行うとともに、発芽前にマシン油乳剤の散布、4月下旬のアプロード水和剤(1,000倍)の散布を実施する。
 - ・防除指針(令和7年度)：164～165、167～168ページ参照



図22 フジコナカイガラムシの雌成虫

1 4 もものせん孔細菌病

- (1) 予報内容 発生量：少ない
発生時期：並
- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量はやや少なかった。(－)
 - ・4月13日にかけての降水量は平年並か少ないと予想されている。(－)
- (3) 防除対策
- ・4月は初期の予防に重要な時期なので、開花直前防除以降、散布間隔が10日以上開かないように注意する。なお、果樹研究センターにおける平年の「あかつき」の開花始期は4月5日、開花盛期は4月8日である。
 - ・春型枝病斑や枯死した枝は見つけ次第せん除する。
 - ・前年に発生が多かった園地では防風対策を行う。
 - ・防除指針(令和7年度)：169、171、173ページ参照



図23 せん孔細菌病の春型病斑枝

IV 花き・球根

1 チューリップの褐色斑点病

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：並
- (2) 予報の根拠
- ・ 4月13日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
 - ・ 4月13日にかけての降水量は平年並か少ないと予想されている。(－)
- (3) 防除対策
- ・ 萌芽期から発病株を抜き取り、殺菌剤を定期散布し、摘花直後の散布を徹底する。
 - ・ 防除指針：(令和7年度)188ページ参照



図24 褐色斑点病の小型病斑(左)と大型病斑(右)

2 チューリップのモザイク病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
- ・ 前年のアブラムシ類の飛来量は平年並だった。(±)
- (3) 防除対策
- ・ モザイク病発病株の抜き取りを徹底し、アブラムシ類の防除薬剤を定期的に散布する。
 - ・ 防除指針：(令和7年度)189ページ参照



図25 萌芽期・展葉期のモザイク症状



図26 チューリップモザイクウイルス(TuIMV)のウイルス感染株(左)と健全株(右)



図27 ユリ潜在ウイルス(LSV)のウイルス感染株(左)と健全株(右)

3 チューリップのアブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
 発生時期：早い
- (2) 予報の根拠
- ・ 4月13日にかけての気温は高いと予想されている（＋、早発）。
 - ・ 直近3年間の初飛来日は平均で4月2日となっており、平年値（過去25か年平均：4月16日）より早くなっている（早発）。



図28 チューリップに寄生する有翅アブラムシ

- (3) 防除対策
- ・ モザイク病発病株の抜き取りを徹底し、アブラムシ類の防除薬剤を定期的に散布する。
 - ・ ほ場周辺の除草を行う。
 - ・ 防除指針：（令和7年度）189 ページ参照

～農薬危害防止～

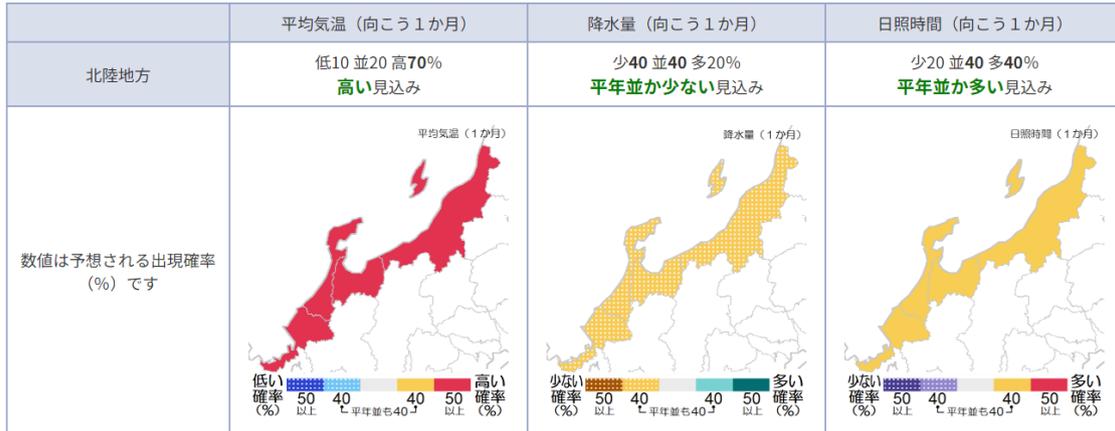
- 1 使用基準の遵守→使う前にラベルを確認する
- 2 農薬の保管は適切に→必ずカギがかかるようにする
- 3 周辺への配慮を→散布前の事前周知と農薬の飛散防止に努める
- 4 防護装備を正しく着用→マスク、保護メガネ、防除衣を着用

北陸地方 1か月予報

3月12日
新潟地方气象台 発表

<予想される向こう1か月の天候>

- ・暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。
- ・期間の前半を中心に高気圧に覆われやすいため、向こう1か月の日照時間は平年並か多く、向こう1か月の降水量は平年並か少ないでしょう



図は気象庁ウェブサイト (<https://www.jma.go.jp/jma/index.html>) より引用

富山県農林水産総合技術センター 農業研究所 病理昆虫課
TEL 076-429-5249
FAX 076-429-7974
情報参考 URL <https://taffrc.pref.toyama.jp/nsgc/nougyou/>

